

縄文を、北海道から盛り上げる！

◇理想の状態◇

- ・主に若い世代が縄文を身近に感じる
- ・縄文遺跡群が世界遺産に登録される
- ・縄文の暮らしがSDGs達成につながる

◇現状◇

- ・縄文時代が教科書に掲載されていなかった世代もあるなど、身近ではない
- ・北海道は東北よりも盛り上がっていない
- ・遺跡の来場者は、中年層～お年寄りが多い
- ・家族連れが遺跡をお散歩コースとして利用している

◇フィールドワーク先◇

8月,2月：伊達市教育委員会の永谷幸人様
(縄文施設の見学・アイデア出し)
2月6日 3月22日 9月18日 11月27日 1月28日
：わかさいも本舗の丹波香澄様
(共同商品開発について)



◇Instagram◇

縄文に関する情報を発信した。ハッシュタグを作り、多くの人が気軽に縄文を知ることができるようにした。英語でも同時に投稿し、世界遺産に向けて、海外の方にも縄文に興味をもっていただけるようにした。
アカウント名は「縄子高生」



◇勾玉クッキー◇

北海道でも多く生産された勾玉を、クッキーで再現した。実際に、11月に試作品を作った。パッケージデザインは本校5回生の八木澤杏美さんに手掛けてもらった。そして、ラッピングの袋にInstagramのアカウントにつながるQRコードと、ハッシュタグを印刷する予定。2021年6月に発売。



◇LINEスタンプ◇

理想の状態に近づくために、若者が身近でたくさん利用しているLINEスタンプを制作した。「縄文人の日常スタンプ」として8種類販売し、好評だったため、第2弾も制作中である。



◇縄文ワークショップ◇ R2年3月7日

一年間探究活動をしてきて、縄文を学び、盛り上げることがSDGs達成につながることに気がついた。そこで、実際に縄文を楽しく学び、持続可能な社会について考える機会を作ろうと考え、「縄文ワークショップ」を実施することが決定した。

参加者は、実際に、「火起こし」「狩り」「漁労」「採集」を体験して、縄文時代で生き残れるかチャレンジする。この4つの体験では、季節や動物の種類などを指定して、どのくらい捕獲すれば持続可能な時代になるのかを考えてもらう。新型コロナウイルスの影響で中止になったが、R3 1月23日にオンラインで開催した。

◇大会◇

R2年2月15日
マイプロジェクトアワード
北海道summit
R3年1月30日
全国高等学校グローバル探究オンライン発表会
マイプロジェクトアワード
北海道summit

◇学んだこと、成長したこと◇

- ・「なぜ」を追求する大切さを学んだ(探究の意義の発見につながった)
- ・新しい出会いを楽しみ、勇気をもってチャレンジする度胸がついた。
- ・優先順位をつけ、役割分担して活動しなければ、十分な活動ができないことを学んだ。
- ・北海道の歴史を調べ、活動したことで、歴史への苦手意識が減った。
- ・人前で、堂々と自分事として話せるようになった。
- ・質問やアドバイスをされたときに、さらに追及したいと、前向きな気持ちになれるようになった。
- ・企業とコラボすることで、プロジェクトを進める責任を強く感じる事ができた。
- ・普通に高校生活を送っていたら経験できない、企業先での打ち合わせや、売上管理などを経験し、成長した。
- ・何事にも意味があることを実感し、積極的に様々なことにチャレンジすることができた
- ・わかさいもさんと共同開発をすることで、成果が求められる事業を立てた責任を強く感じ、計画・実行・多くの方々に協力して頂けるようにするためには、誠実で責任ある行動をとることが必要だと学んだ